

尙本名ハ一九〇八年一月九日莫斯科ニ於テエウゲニヤ・ラサリ
エウナ・タフトナル者ト結婚全人トノ間ニ長男ゲオルギイ（一
九〇九年一月生）ヲ設ケタルカ全人トハ一九一七年以來別居中
ノ處昭和四年正式離婚長男ゲオルギイハ前記タフトノ籍ニ入ル
コトトナリ全年九月十八日現在ノ妻ト結婚セルモノニシテゲ
オルギイハ目下佛國籍ヲ取得シ母タフトト共ニ佛國パリニ居
住美術建築ニ従事シ、本名ト共ニ日本國籍ヲ取得スル者ニ非
ス

〔和文タイプ〕〔外國人教師關係 自昭和十二年至昭和十三年〕

（一）この部分に手書きで「左ノ番ニ居住ス」と加えられている。

（十五）レオニード・クロイツァー Leonid Kreutzer

在職期間 昭和十三年～二十五年（一九三八～一九五〇）
外國人講師
担当科目 ピアノ

履歴（要約）

- 一八八四年三月十一日ロシアのサンクト・ペテルブルクに生まれる。
- 一九〇一年ペテルブルクのセント・ペトリ・ドイツ高等学校を卒業。同年ペテルブルク音楽院入学、ピアノをエシポヴァに、作曲をグラズノフに学び、一九〇五年同校卒業。
- 一九〇六年渡独、欧米ほかでピアノリスト・指揮者として活躍。
- 一九二一年～一九三三年ベルリン高等音楽学校主任教授。シヨパン作品全集を校訂・出版する。
- 一九三一年（昭和六年）初来日。演奏会に加えてわが国では前例のなかった特別講習会を行い、その功績により銀杯を授与される。



レオニード・クロイツァー

- 一九三三年四月、ナチスによって制定された職業官吏制度再建法により公職追放を受けベルリン音楽大学主任教授を辞任。
- 一九三四年（昭和九年）二月末～六月再来日。翌一九三五年にかけてアメリカ演奏旅行。
- 一九三五年（昭和十年）そのまま帰独せず三度目の来日。
- 一九三八年（昭和十三年）三月、東京音楽学校教務嘱託。
- 一九三九年（昭和十四年）東京音楽学校外国人講師となり日本に永住。
- 一九四二年（昭和十七年）ナチスに国籍を剥奪され、無国籍となる。
- 一九四四年（昭和十九年）東京音楽学校を公職追放。演奏活動も停止。
- 一九四五年（昭和二十年）五月十七日より終戦の八月十五日まで軟禁される。
- 一九四六年九月～一九五〇年（昭和二十一年～二十五年）東京音楽学校に復職。
- 一九五三年（昭和二十八年）演奏中になおれ、東京にて没。
- 日本で活躍した門下生にカガノフ（別名シ・コハンスキー）、伊達純、室井摩耶子ら。妻は門下生の一人である織本豊子。

著書

Das normale Klavierpedal (1915)

Das Wesender Klaviertechnik (1923)

弦の特殊系ノ樂器ニ関スル (1950) 452

楽譜校訂

ハコペン全集' ショートペン' ヨーヨーペン 452

洋曲

Der Gott und die Bajadere (1920) 452

〔ハロヤシローノ體面外ノ空想〕

Tokyo, den 18. Februar 1931.

Herrn Professor Leonid Kreuzer.

Sehr geehrter Herr Professor;

Ich habe in Erfahrung gebracht, dass Sie, einer hiesigen Einladung folgend, Mitte März für einen mehrwöchigen Aufenthalt in Japan eintreffen werden. Es ist mir eine grosse Freude Sie, den berühmten Virtuosen, in Japan begrüssen zu dürfen, wo das Interesse für europäische Musik ein sehr reges ist.

Als Direktor der einzigen staatlichen Musikakademie in Japan würde ich es für sehr begrüßenswert erachten, wenn Sie während Ihres Aufenthaltes in diesem Lande einige Kurse und Vorträge halten wollten und lege Ihnen einen bezüglichen Plan vor. Es ist mir wohl bewusst, dass Ihre Zeit hier überaus in Anspruch genommen sein wird, doch halte ich es für sehr wichtig, dass der beiliegende Plan nach Möglichkeit in die Tat umgesetzt wird. Ich

bitte Sie sehr, meinen Vorschlag zu studieren und mir je eher Bescheid zukommen lassen zu wollen, ob Sie gewillt sind, die darin angeführten Kurse und Vorträge zu halten, damit ich, resp. die kaiserlich japanische Musikakademie zu Tokyo die nötigen Vorbereitungen treffen kann.

Ich benutze diese Gelegenheit, um Ihnen noch vielen Dank zu sagen für all die Mühe, die Sie sich mit dem Unterricht Studenten in Europa gegeben haben, wie auch für Ihre ständige lebenswürdige Mithilfe in der Auswahl von europäischen Musiklehrern für unsere hiesige Musikakademie.

Empfangen Sie, sehr geehrter Herr Professor, mit der Bitte um eheste Beantwortung meines heutigen Schreibens, den Ausdruck meiner

vorzüglichsten Hochachtung und Wertschätzung

Direktor der Kaiserlich Japanischen
Musikakademie zu Tokyo

Plan für Kurse und Vorträge, zu halten durch
Herrn Professor Leonid Kreuzer.

Kurse:

Termin: Mitte April - Mitte Mai 1931, ca 5 Wochen.
Wöchentlich eine Unterrichtsstunde pro Person.
son.

Teilnehmer: 12 Lehrkräfte der Kaiserlich Japanischen Musikakademie zu Tokyo und einige Lehrkräfte von Privat-Musikschulen.
Gebühr: Yen 125 (hundertfünfundzwanzig Yen) pro person.

Vorträge.

Je nach der zur Verfügung stehenden Zeit des Vortragenden, einige Vorträge für Kursteilnehmer. Als Zuhörer zu diesen Vorträgen werden auch Lehrkräfte der Kaiserl. Japan. Musikakademie zu Tokyo, sowie jetzige und ehemalige Studenten der Akademie zugelassen.

Thema: Klaviertechnik und Pedaltechnik; Ausdruck; Charakteristik der Musik von Bach, Mozart, Beethoven, Chopin, Schumann etc.

Veranstalter.

Offizielle Leitung der Kurse und Vorträge: Verein der ehemaligen Studenten der Kaiserlich Japanischen Musikakademie zu Tokyo (Dōseitai). (ターナ)

(「東京音楽學校 外國關係往復」)

〔クロイツァーよりの回答〕

Sehr geehrter Herr
Direktor.

Den 10. März

Vielen Dank für Ihren freundlichen Brief. Es wird mir eine Ehre und ein Vergnügen sein Ihreme Institut nützlich sein zu können. Ihren Vorschlag acceptiere ich gerne. Allerdings wäre es mir sehr wichtig, daß der Unterricht in *Anwesenheit* der anderen Kurs-Teilnehmer vor sich sehr. Wenn Leute zühören, unterrichte ich mit viel mehr Interesse und Leben. Liebe sich das nicht einrichten? Vielleicht könnte man auch passive Zuhörer zu den Stunden zulassen? Ich komme schon am 6. April an. Man kann dann vielleicht noch Verschiedenes organisieren.

Einstweilen nehmen Sie bitte meine Grüße und den Ausdruck meiner Hochachtung entgegen.

Nur sehr ergebener
Leonid Kreuzer

(手書き) (「東京音楽學校 外國關係往復」)

昭和六年四月二日

東京音楽學校長乗杉嘉壽

殿

拜啓春暖の候愈々御清適の段賀上候陳者来る四月上旬に於て獨逸國伯林高等音楽院教授レオニード、クロイツァー氏來朝可相成に付ては右機會に於て本校及其他のピアノ科教師の爲特別講習會を開催可致豫定の處同講習會の期間中左記に依り聽講員の聽講方取計度と存居候條右御希望有之候は、四月六日迄に御申越相成度此段得貴意
敬具

追て右聴講の件は唯今未定なるもクロイツァー氏着京の上確定して更に御通知可申に付御合置相願度候

〔謄写版〕

〔特別講習会の実施要項〕

クロイツァー氏聴講員ニ關スル要項

一、資格 同聲會員ニシテ本校研究科修了又ハ在學中ノモノニ限ルコト

二、時間 五時間トス(五週間、毎週一日、一日一時間ツ)

三、員數 正員十名トシ各正員ハ右五時間中一回半時間直接先生ノ指導ヲ受ケソノ他ノモノハ聴講スルモノトス

四、聴講料 一人五十圓トシ前納ノコト

五、副員 聴講希望者十名以上ニ上リタル時、先着順トシ其他ハ副員トシ第二項ノ直接ノ指導ヲ受ケルコトヲ得サルモノトス

〔謄写版〕

「クロイツァー」教授特別講習會々員

東京音楽學校

高折宮次	田中規矩士
室岡清枝	川上きよ
渡邊トリ	宇佐美ため
山田菊江	見田公子
榊原直	永田晴
遠山つや	山越八重子
椎葉照子	

東洋音楽學校

ダン・ゼームス

東京女子音楽學校

川上良武

「クロイツァー」教授聴講生

萩原英一	小倉末	貫名美名彦	橘いとへ
多賀谷チカ	(信時 潔)	(片山頼太郎)	幸田延
宮内鎮代子	岡本リウ	石橋益恵	大井悌四郎
平戸喜代	平戸富美子		上浪かづ
福井輝子	赤羽田鶴	服部登和	川村信義
遠藤比佐	山下茂	金井富美	木村ゆき
吉原千重	境進	東イサ	菅原田鶴
田中すみ	松尾あい	山田みどり	
田村雅子			

〔和文タイプ〕

クロイツァー教授講習會日程

四月八日(水)	午後六時ヨリ午後十時マデ	A級
全 九日(木)	午後六時ヨリ午後十時マデ	B級
全 十日(金)	午後六時ヨリ午後十時マデ	C級
全 十一日(土)	午前九時ヨリ午後一時マデ	A級
全 十一日(土)	午後六時ヨリ午後十時マデ	B級
全 十二日(日)	午後四時半ヨリ午後六時マデ	聴講生
全 十二日(日)	午後六時ヨリ午後十時マデ	C級

全 十五日(水)	午後四時半ヨリ午後六時マデ	聴講生
全 十五日(水)	午後六時ヨリ午後十時マデ	A 級
全 十六日(木)	午前九時ヨリ午後一時マデ	B 級
全 十六日(木)	午後六時ヨリ午後十時マデ	C 級
全 十九日(月)	午後四時半ヨリ午後六時マデ	聴講生
五月五日(火)	午後四時半ヨリ午後六時マデ	聴講生
全 五日(火)	午後六時ヨリ午後十時マデ	A 級
全 六日(水)	午後六時ヨリ午後十時マデ	B 級
全 七日(木)	午後六時ヨリ午後十時マデ	C 級
全 八日(金)	午前九時ヨリ午後一時マデ	A 級
全 八日(金)	午後六時ヨリ午後十時マデ	B 級
全 十日(日)	午後四時半ヨリ午後六時マデ	聴講生
全 十日(日)	午後六時ヨリ午後十時マデ	C 級

昭和六年四月七日

以上

(謄写版) (東京音楽学校 外國關係往復)

上 申 書

今般獨逸國立高等音楽院教授レオニード、クロイツァー氏招聘ニ應シ來朝致候處同人ハ洋琴ノ世界的巨匠トシテ聲譽極メテ高キモノアルハ勿論本邦ヨリ洋琴又ハ聲樂研究ノ爲同國ニ留學セルホトシト總テノ者ハ直接或ハ間接ニ同人ノ懇切周到ナル指導誘掖ヲ受ケサルナク殊ニ現在本校ニ於テ樞要ノ地位ヲ占ムル數名ノ教授ノ如キハ同國ニ在留研究中最モ熱誠アル教導ヲ受ケタル次第ニ有之又同人ノ著セル洋琴ニ關スル書籍中ニハ本邦人ノ手指ニ適應スル様書カレ本邦人

ニシテ洋琴ヲ修ムル者ノ爲ニハ唯一無二ノ良參考書トシテ推賞セラ
ル、モノモ有之尙又本校備外國人教師ノ選定方及備入斡旋ニ就キテ
モ常ニ其ノ勞ヲ各マス更ニ今回ノ來朝ニ際シテモ五週間ニワタル洋
琴特別講習會講師トシテ本校教職員拾餘名、本校研究科在學生並ニ
卒業生拾數名ニ對シ直接之カ指導ヲ行フヘキ豫定ニ相成居リ仍テ以
テ本校教育ノ改善向上ニ貢獻スル所頗ル多大ナルモノアルハ勿論本
邦洋樂界ノ進展ニ就キ其ノ功蓋シ没スヘカラサルモノ有之義ト被存
候就テハ此際同人ノ功勞ニ對シ相當ノ表彰方特ニ御取計相成様致度
此段及上申候也

昭和六年四月七日

東京音楽学校長 乗 杉 嘉 壽

文部大臣 田 中 隆 三 殿

(和文タイプ)

獨逸國立高等音楽院教授獨逸國人 レオニード、クロイツァー

銀杯壹組ヲ賜フ

昭和六年五月九日

賞勳局總裁正四位勳二等下條康磨(印)

(和文タイプ) (叙位叙勳上申原議)

クロイツァー教授來朝

世界的ピアノニストとして令名のあるベルリン高等音楽院ピアノ科
首席教授レオニード・クロイツァー氏は櫻咲く頃來朝される筈で、
氏はコハンスキー、ラウトルツプ、高折、田中諸教授其他我國優秀

ピアノリストの恩師で、東京に於ても洋琴家の爲に講習を開く事になつてゐる。之即ちベルリンの教室の延長を見るべく、氏の蘊蓄の開陳は従來の大音楽家の數回の演奏會より遙かに多大なる收穫と啓發とを我樂壇にもたらすものだらうと期待されてゐる。

〔同聲會會報〕七十号 昭和六年三月 一六頁

クロイツァー教授を送つて

笈田光吉

今迄の我が樂壇にとつて、今回來朝されたクロイツァー教授程色々な意味に於て貢獻されてゆかれた人はない。何故なれば氏は演奏家であると同時に有名なピアノの教育家でもあるから其の上氏の如き大家にして、我が國で講習をしてゆかれた人は氏を以て嚆矢とする。氏は二個所に於て講習會を開かれた。一つは小生のスタヂオに於て、氏が獨逸のポーツダム(地名)のバルベリーニ宮殿に於て開かれた歴史的講習會と同じ組織を以つてとし、實習と講議とを同時に公開して行はれた。一つは普通のプライヴェイト レッソンの如き方法で非公開にて音楽學校分教場に於て學校の教師のみに行はれた。如斯き事は今迄に無かつたゞけそれだけ多くの影響を與へた事と思ふ。然し此の影響は、氏が尙數回來朝され講習を繰返へされて始めて實を結ぶことと思ふ。又私はこれを我が樂壇の爲めに希望してやまない。(後略)

〔月刊樂譜〕第二十卷第六号 昭和六年 九〇頁

〔クロイツァーより提出された履歴〕

LEONID KREUTZER

Lebenslauf:

Geboren in St.-Petersburg am 11. März 1884.

Staatsangehörigkeit - Deutsch

Absolvierte das deutsche Gymnasium zu St.-Petri in Petersburg 1901

Studierte Musik im Petersburger Kaiserlichen Konservatorium-Klavier und Composition, absolvierte es im Jahre 1905.

Konzertiert seit 1906 in Europa, Amerika und dem Fernen Osten als Pianist und Dirigent.

Ordentlicher Professor an der Berliner Akademischen Hochschule für Musik 1921-1933.

Veröffentlichte eine Reihe musikpädagogischer Schriften und gab eine Gesamtausgabe Chopin'scher Werke heraus.

Trat als Komponist mit einer symphonischen Pantomime: "Der Gott und die Bajadere" (nach Goethe) hervor. Uraufführung Mannheimer Staatsoper 1921 und Berliner Städtische Oper 1924.

Leonid Kreuzer

Tokyo, 3. Februer
1938

(タイプ。サインのみ手書き) (外國人教師關係 自昭和十二年至昭和十三年)

機密第三六八號

昭和十三年九月十日

在獨

特命全權大使 東郷茂徳印

外務大臣 宇垣一成殿

東京音楽學校雇外人教師「レオニド、クロイツァ」に關スル件

今般當國外務省文化事業部係官ヨリ當館員ニ對シ本年二月東京音楽學校外人教師トシテ雇傭セラレタル「レオニド、クロイツァ」ハ元當地國立音楽學校教師タリシ獨逸系猶太人ニシテ右同人ノ就職ニ先チ在京獨逸大使館側ヨリ右取止メ方ヲ希望スル旨本邦側關係筋ニ傳達ノ次第アリタル處當國關係當局ニ於テハ獨逸ヲ逃避セル猶太人カ日本官立學校ニ奉職スルハ誠ニ遺憾ニ思フ所ナルニ依リ適當ノ機會ニ同人解雇方ニ付考慮セラルトヲ得ハ好都合ニシテ同人ノ後任ニ就テハ何時ニテモ優秀ナル音楽教師ヲ斡旋致スヘキ用意アリトノ趣旨ノ申出アリタル趣ナルカ東京音楽學校ニハ過般當國宣傳者ノ推薦ニ基キ傭傭セラレタル獨逸人教師ノ奉職セル關係モアリ東京音楽學校猶太人教師ノ問題ハ當國側ノ感情ヲ特ニ刺戟スルモノト推測セラレ、次第ナルカ獨逸外務省側ニ説明スヘキ關係モアリ本件ニ關シ文部省音楽學校當局等ニ於テハ如何ナル意向ナリヤ御確メノ上御回報相煩度

(手書き)

(「外國人關係 雜件專門學校ノ部」外務省外交資料館蔵)

東京音楽學校長

本年八月三十一日付音庶第二〇二、三號で申請の無國籍レオニドクロイツァー及びマルガレテ・ネットケに講師を囑託することは許可する

昭和二十二年九月一日

文部大臣 森戸辰男

(「外國人教師關係 自昭和十三年至昭和二十四年」)

音庶第二五〇號

十一月十五日

文部大臣宛

學校長

外國人講師手當改定の件上申

(中略)

外人講師給與表(月給制)

號俸	金額	勤務地手當加算	税金	差引支給額
一號	七、二〇〇圓	九、三六〇圓	一、四七八圓	七、八八二圓
二號	八、四〇〇圓	一〇、九二〇圓	一、八八一圓	九、〇三九圓
三號	九、八〇〇圓	一二、七四〇圓	二、三七七圓	一〇、三六九圓
四號	一一、三〇〇圓	一四、六九〇圓	三、一三一圓	一一、五五九圓

號俸	金額	勤務地手當加算	税金	差引支給額
一號	九、三六〇圓	一二、一六八圓	二、一九六圓	九、九七二圓
二號	一〇、九二〇圓	一四、一九六圓	二、九三一圓	一一、二六五圓
三號	一二、七四〇圓	一六、五六二圓	三、八九一圓	一二、六七一圓

四號	一四、六九〇	一九、〇九七	四、九九八	一四、〇九九
----	--------	--------	-------	--------

外人講師給與表（時間給制）

號俸	二、九〇〇圓ベース		
	金額	月（六時間）額	税金
一號	一八〇圓	四、三二〇圓	四一圓
二號	二二〇	五、〇四〇	五四二
三號	二四〇	五、七六〇	六八二
			差引
			三、九〇九圓
			四、四九八
			五、〇七八

號俸	三、七〇〇圓ベース		
	金額	月（六時間）額	税金
一號	二三四圓	五、六一六圓	六五四圓
二號	二七三	六、五五二	八四八
三號	三一二	七、四八八	一、〇五一
			差引
			四、九六二圓
			五、七〇四
			六、四三七

外國人講師時間表

氏名	實際の授業時間	契約時間數	現俸給
ヴーハーペニヒ	一四時間	一六時間	五、九一六圓
ネトケ・レーベ	一一〇	一二〇	五、二三六圓
モグレフスキー	三〇	六〇	二、五五三圓

クロイツァー	三〇	六〇	二、〇五〇圓
--------	----	----	--------

〔横書きの手書き〕〔外國人教師關係 自昭和十三年至昭和二十四年〕

(十六) ヘルムート・フェルマー Hermut Fellmer

在職期間 昭和十三年～二十年（一九三八～一九四五）
備外國人教師

担当科目 作曲、合唱、管絃樂

履歷（要約）

- 一九〇八年五月二十八日ドイツのドレスデンに生まれる。
- 一九二八年ドレスデン市のザクセン国立管絃樂學校卒業。ワイマール市ドイツ国民劇場副指揮者。一九三三年同劇場樂長。テューリンゲン州アルテンブルク市劇場指揮者。
- 一九三八年（昭和十三年）来日、四月十三日東京音楽學校講師となる。
- 一九四〇年（昭和十五年）十二月八日紀元二六〇〇年記念祝典においてリヒャルト・シュトラウスの《祝典音樂》を指揮した。
- 一九四二年（昭和十七年）四月二十七日海軍軍樂隊東京分遺隊における職務を囑託される。
- 一九四五年（昭和二十年）八月三十一日東京音楽學校解雇、武蔵野音楽學校の講師となる。
- 一九四七年（昭和二十二年）二月アメリカ占領軍当局による在日ドイツ人追放のため、日本における活動を断念。ドイツに帰国後、カッセル国立歌劇場の樂長および合唱指揮者に就任。
- 一九五一年以降毎年夏にはバイロイト音楽祭の副指揮者。
- 一九五四年四月ヴッパータール市立歌劇場の第一指揮者。
- 一九五七年九月レームシャイト市立交響樂団の指揮者。
- 一九五八年（昭和三十三年）東京芸術大学への復職を希望し、大学側も条件を提示したが、フェルマーの都合により実現せず。